

【児童への話】

10月もいよいよ下旬となります。今週末には暦の上で秋の一番最後、「霜降（そうこう）」の時期に入ります。気持ちのよい気候の日が続いているので、自分の時間をうまく使って、心や身体を豊かで逞しくしていってください。

今日は、「国際教育」についてお話しします。

先週の水曜日、3年生の外国語活動の学習を、区内小学校の先生方に参観していただきました。3年生が生き生きと英語で伝え合う姿が、とても素晴らしかったです。これからも楽しみながら、自分からすすんで学習できる落五の皆さんでいてください。

さて、この世界には今、80億人も人類がいます。もちろん、その国や地域ごとに、使われている言葉や文字は様々です。皆さんの中にも、日本語だけでなく、他の言語とも親しんで使うことができる人がいますね。では、この世界の中で、どのような言語、何語が、多く使われていると思いますか？ちょっと想像してみてください。

では正解を発表します。ふたつ以上の言語を使っている人もたくさんいますので、普段、インターネットで利用する言葉として使っている言語の多いものを紹介します。

第1位は「英語」です。なんと、4人にひとり以上のおよそ26%の人が英語を使っていると言われています。英語はアメリカ、イギリス、オーストラリアなどで使われています。英語が話せるようになれば、旅行やお仕事で困ることはほとんどなさそうですね。

第2位は「中国語」です。これも、5人にひとりくらいの19%以上の人が中国語を使っているそうです。中国語は中国や台湾、シンガポールなどで使われています。第3位はスペイン語、そこから先はアラビア語、ポルトガル語などがよく使われる言語として挙げられます。

では、私たちがいつも使っている日本語は、世界中どれくらいの割合の人に使われていると思いますか？答えはだいたい2.5%、40人に1人くらいです。皆さんが日本以外の国に行って日本語で話しかけたときに、皆さんの今いるクラスの人数の中で日本語でコミュニケーションがとれる人はほとんどいないということになります。これからの世の中、いくつかの言語が使えることは、とても大切なことがよく分かる数字ですね。

私たちが他の国の言語を学習するときには、言葉の使い方はもちろん、その国や地域の文化や風習、人々の性格や食べ物などを知り、その国や地域のことを詳しく理解することが大切です。これを「国際教育」と言います。校長先生の大好きな落五小の皆さんには、担任の先生やALTの先生との外国語の学習を頑張って、色々な国の文化に触れ、世界で活躍する力を蓄えて欲しいと思います。今日は「国際教育」についてお話ししました。

【本講話について】

新宿区には「新宿区立小学校教育研究会（新教研）」があり、17の部会に区立小学校の全教員が所属して授業実践の紹介や研究授業を行うことで、授業力の向上を進めています。どの部会もとても熱心に活動していて、自己を高め続けて子どもの成長につなげようとする先生方の姿が本当に素晴らしいです。ちなみに私は情報教育部の所属です。これからの教育の中核になる部分だと感じています。

先週の新教研、英語部の授業研究では、落五小の3年生と担任及びALTがとっても頑張りました。参会いただいた先生方からもたくさん褒めていただきました。落五小の教育活動がもっともっと充実するように、教職員一同、これからも研究と修養に努めていきます。